

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在地	台東区西浅草 3-19-3 スターライト浅草 1F
施設名	ミアヘルサ保育園ひびき浅草

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ごっこ遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子どもたちの好きな遊びの中にごっこ遊びがあり、毎日楽しむ姿が見られる。家庭の家事やお店での様子を模範している子どもの姿があり、日常生活の行動がままごとを通して繰り返し広げられている。日常が反映されやすいままごとでさらに子どもたちの興味・関心や遊びの幅を広げていきたいため。

2. 活動スケジュール

日々の遊びの中で、ままごと遊びを設定していく。子どもたちの発言や、行動を見ながら保育者が、リトミックスカーフやメルちゃん人形などをプラスで設定し、遊びが広がるような環境設定や声掛けをしていく。

例：ままごと遊びをしている中で、お母さんやお父さんになりきる姿が見られた場合は、ドールハウスやリトミックスカーフを用意し、なりきり遊びや、おうちごっこに展開できるようにしていく。

例：ままごと遊びの中で、自分たちでお家を作りたいという希望が聞こえた場合は、机上遊びの中で、マグタイ尔とシルバニアを用意し、自分たちで家を作り、シルバニアを使いながらごっこ遊びを出来るように設定していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

レース、人形の洋服、抱っこ紐、ミルクなどを用意し、必要に応じて家や仕切りを用意する。また、マグタイ尔やシルバニアなども用意し、子どもが自分たちで家を作れるような設定を行った。また、クラスごとに年齢に応じた玩具の大きさや環境を設定する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月～3月にかけて、各クラス活動の中にごっこ遊びを取り入れる。また、子どもから「やりたい」という言葉が聞こえてきた際は、保育者がその都度環境設定を行い、ごっこ遊びを発展させられるように、また子どもが遊ぶことが出来るようにしていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

0歳児・・・ままごと遊びのなかで好きな食べ物の玩具を手に取り食べる真似をしたり、スプーンを使って、口に近づける真似をしたりする姿が見られた。子どもの表情を見たり喃語を聞いたりしながら、保育者が「おいしいね」や「これはいちごだね」と子どもの気持ちを言葉にして声かけをする。また、「ここにお皿あるね」や「いただきますしてみる？」と興味を広がるように声かけをすると、子どもも真似しながら遊ぶ姿が見られる。安全を考慮して、口に入れても可能な大きさや素材の玩具を用意する。

1歳児・・・ままごと遊びのなかで、保育者と一緒に料理をする姿や「いただきます」のやりとりが見られた。遊びが進む中で「いってらっしゃい」「ただいま」などのやりとりが見られたため、保育者がパーテーションやメルちゃん人形を用意し遊びが広がるような環境設定を行うとパーテーションを立てて、メルちゃん人形をおんぶしておうち遊びが始まる。おうち遊びの中で、一人遊びでお母さんや保育者になりきり横になっている人形をトントンして午睡の真似をしたり、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりをしたりして保育者と楽しむ姿が見られる。

2歳児・・・最初に食べ物図鑑を見ながら、子ども同士で自分が好きな食べものや、お互いに食べさせる姿が見られる。その次に、「お家で、これ作ったよ。」や「これはこのお野菜使うんだよ」などの会話が聞こえてきたため、ごっこ遊びを設定する。おうちごっこでは、段ボールで作った仕切りを家に見立て人形や抱っこ紐を使いながらお父さんお母さんになりきりながら遊ぶ姿が見られる。お店屋さんごっこでは「いらっしゃいませ」「何にしますか」「これ1個下さい」とやり取りしている姿が見られ、また「お金も欲しいね」と自分たちで気づきながら玩具をお金に見立ててごっこ遊びを楽しむ姿が見られた。なりきりごっこでは、レースを使いながら子どもたちが普段あこがれているキャラクターになりきりながら遊ぶ姿があり、プリンセスに変身した子どもは「私はお姫様よ」と行動や言動を真似する姿が見られた。また、マグブロックで立体の家を作る姿が見られたため、そのサイズに見合う人形を用意することで、自分たちで家を作り、リビングや玄関などの配置を決めたり、設定を子どもたち同士で決めてお人形ごっこやままごと遊びで展開し、遊びを深めている姿がある。また3月にはお店屋さんごっこを行い、自分たちで素材を乗せたり、お客さんや店員になりきりながら楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

何かになりきりながら遊んだり、日常を遊びに反映させながら遊ぶ姿が見られるようになり、そうした子どもたちの興味関心にそったテーマを設定することで、活動の中で自分がなりきりたいもの、表現したい物を玩具や人形を用いて表現したり、自分たちでどんなものがあかかを考え遊びに取り入れる姿にも成長が見られた。決まったものがないことにより、子どもたちの頭の中にある想像を遊びや形に反映されながら自由な形で遊ぶことが出来た。子どもたちのなりたい、やりたいの気持ちにを大切に、必要な環境を整えながら引き続き保育を続けていきたい。